

会報 JAISA

ジャイサ

2026
夏号
第87号



第16期定時社員総会を開催

2026年5月27日(水)、東京・日本橋で
日本自動認識システム協会「第16期定時社員総会」が開催されました。
本総会の議案は異議なく承認され、今期の事業がスタートしました。



会報 JAISA 夏号 CONTENTS

特集 第16期定時社員総会 P1 - 3

2025年度自動認識市場調査報告書 / 2026年度の市場予測 P4 - 5

2025年度 日本自動認識システム協会 入会企業のご紹介 P6 - 10

AUTO-IDトップランナーに聞く ～アイメックス(株)岡田社長～ P11 - 13

未来をつなぐAUTO-IDプロジェクト レポート P14 - 17



第16期定時社員総会懇親会



AUTO-IDトップランナーに聞く

特集 第16期定時社員総会 概要

第16期定時社員総会を開催

2026年5月27日(水)、一般社団法人日本自動認識システム協会(略称=JAISA)はAP日本橋(東京・中央区)を会場に、第16期定時社員総会及び理事会、総会懇親会を開催しました。

本総会は正会員112社のうち36社の出席と受領している議決権行使書をあわせ、議決権数93個で定足数を満たし成立しました。総会の第1号議案は2025年度事業報告及び計算書類の承認を求める件となり、事業報告の説明と計算書類を提出、監事からは、いずれも正確かつ適正であることを認めた旨が報告され、社員総会は別段の異議なくこれを承認可決しました。

総会后、2026年度第1回通常理事会が行われ、21名の理事及び監事の体制で今年度の事業をスタートしました。

総会懇親会

同日17時から会場を移して懇親会が開催され、来賓をはじめ、関係団体、会員企業のみなさま約150名にご参加頂きました。

冒頭、柴谷会長が挨拶に立ち、関係省庁・団体ならびに会員企業への感謝を述べました。地政学リスクや物価上昇、人手不足を背景に企業活動ではDX推進が不可欠となる中、生成AIやデータ活用の進展により自動認識技術の重要性が一層高まっていると指摘。AIの信頼性を支える「正確なデータ」の必要性に触れ、現実世界とデジタル世界をつなぐ自動認識技術が社会基盤として役割を拡大していくとの認識を示しました。そして、2026年度はAIとITを融合した自動認識システム推進と会員サービス向上に取り組む方針と説明、今後の協力を呼びかけました。

続いて、来賓の経済産業省・須賀千鶴産業機械課長より祝辞を頂きました。須賀氏は、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギーや石油化学製品の供給不安に触れ、政府として安定供給の確保に取り組んでいると説明。また、製造現場のデータ活用を支援する「製造AX(AIトランスフォーメーション)拠点構想」を紹介。リアルな情報をデジタル化する自動認識技術は、AI時代のコア技術として非常に将来性が高い分野であると述べ、業界のさらなる活性化への期待を寄せられました。

本年は協会発足40周年の節目にあたります。会場では長年業界を支えてきたOBの紹介も行われるなど、これまでの歩みを振り返るとともに、参加者同士で活発な情報交換が行われ、盛況のうちに閉会しました。



日本自動認識システム協会
代表理事会長 柴谷 浩毅



経済産業省 製造産業局
産業機械課長 須賀千鶴 氏

一般社団法人日本自動認識システム協会 理事・監事

役職/50音順

役職	氏名(敬称略)	会社名
代表理事会長	柴谷 浩毅	TOPPAN ホールディングス株式会社
代表理事副会長	森田 昌洋	オカベマーキングシステム株式会社
副会長	小平 尚	株式会社マーストケンソリューション
専務理事(常勤)	佐藤 誠	一般社団法人日本自動認識システム協会
常務理事(常勤)	熊本 正宏	一般社団法人日本自動認識システム協会
理事	阿久津 和弘	富士通株式会社
理事	荒木 勉	上智大学
理事	池上 隆介	株式会社日立製作所
理事	市野 将嗣	電気通信大学
理事	岡田 幸紀	アイメックス株式会社
理事	斎藤 英雄	慶應義塾大学
理事	相良 隆義	株式会社デンソーウェーブ
理事	笹原 美徳	株式会社サトー
理事	佐藤 寿俊	大日本印刷株式会社
理事	高嶋 照仁	ゼネラル株式会社
理事	藤沢 修	TOPPAN ホールディングス株式会社
理事	宝代 彰	株式会社フェニックス
理事	山本 健太郎	株式会社リコー
理事	湯川 知明	東芝テック株式会社
監事	小森谷 豊	税理士法人レインボー
監事	平本 純也	アイニックス株式会社



特集 第16期定時社員総会 2026年度活動方針

第16期定時社員総会で報告された2026年度活動方針及び事業計画を一部抜粋して掲載致します。

日本自動認識システム協会2026年度活動方針

働き方の変化、コミュニケーションの変化に適切に、且つAI技術を上手に活用することで効率よく対応し、自動認識の普及発展のための会員サービス向上と急速に進化するDX、持続可能なSXに貢献する自動認識システムの普及を方針の柱とする。

(1) 自動認識の技術価値向上と会員サービスの充実

普及啓発事業、資格認定事業、部会・プロジェクト活動などを通じた情報、成果の発信や教育支援等の実施による技術価値向上を図り、展示会、システム大賞、情報交流会、システム事例セミナー等の情報発信を、WEBやソーシャルメディアを最大限活用して継続的、効果的に実施することにより会員サービスの充実を図る。あわせて、当協会の会員であることの利点を広くアピールし、会員を拡充すべく協会の広報活動に注力する。

(2) DX とSX に貢献する自動認識システム

本年度は自動認識がDXに不可欠な「データ収集のデファクトスタンダード」であり、自動認識技術がDXを実現し、持続可能性(SX)を支え、無人化、非接触化、省力・省人化に貢献することを広く発信し、新たな社会課題への対応を当協会が主導し会員企業との連携を深めて取り組む。あわせて、各種セミナー事業、資格認定事業、普及啓発活動により自動認識システムに関わる人材育成のすそ野の拡大に注力する。

2026年度の主な事業計画

(1) 第28回自動認識総合展の主催

第28回自動認識総合展を2026年9月9日から9月11日の3日間、東京ビッグサイト(東京国際展示場)にて開催。「未来をつなぐAUTO-ID」をテーマにDX推進のための基礎技術としての自動認識技術をアピール、先進の画像認識技術を集めた「画像認識×AIゾーン」を設置し、次の世代の自動認識を紹介。自動認識技術・ソリューションの普及促進に努める。

(2) 自動認識総合展 名古屋を開催

2027年2月25日～2月26日の2日間、名古屋市「吹上ホール」にて自動認識総合展 名古屋を開催。自動認識製品の最新情報やセミナー講演の充実を図り、中京地域における自動認識技術・ソリューションの普及促進に努める。

(3) 各種セミナーの開催

① 展示会セミナー

展示会の併催事業として“自動認識の最新動向・最新事例”をテーマとした「BTSpice(Business&Technology Spice)自動認識セミナー」を開催。各市場における新しい事例、技術動向を講演に組み込み、新しい知識の習得やビジネスモデル構築に役立つ講演を企画する。

② 自動認識の基礎知識セミナー

自動認識市場活性化活動として、自動認識の基礎知識セミナーを実施し、企業内の社員教育としての活用を促し、会員・非会員に情報発信を行う。



今期の実施予定

計6回

2026年

4月22日(済)、6月19日(済)、
8月27日、10月20日、12月11日

2027年

2月18日

講師派遣(出張形式/オンライン形式)は
申込により随時実施する。

(4) 自動認識システム大賞

先進的かつ導入効果が顕著な、自動認識に関する技術
またはシステムを表彰する制度として自動認識システム
大賞を設け、大賞、優秀賞、産経新聞社賞、特別賞を
選定し表彰する。

(5) 資格認定事業

①自動認識基本技術者資格認定講習・試験

第56回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験

講 習	2026年7月2日～3日
再視聴	7月4日～10日
試 験	7月11日 東京、大阪、仙台

第57回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験

講 習	2026年11月5日～6日
再視聴	11月7日～13日
試 験	11月14日 東京、名古屋、福岡

②RFID専門技術者資格認定講習・試験

第21回 RFID専門技術者資格認定講習・試験

講 習	2027年2月4日～6日 東京、またはリモート
再視聴	2月13日 東京

(6) 国内市場動向調査

国内唯一の自動認識産業団体として、当該市場の市場
動向を把握するため、出荷実績調査を実施する。

2026年1月から12月末までの期間の国内企業出荷
実績調査、分析及び2027年の市場動向予測を行う。

(7) 規格の立案及び標準化の推進事業

自動認識業界及び自動認識技術の利用者である産業
界の関連団体と協力して、業界の共通課題を解決し、
わが国産業の発展に寄与するため、当協会が国内審議
団体として活動する標準化会議を開催するとともに、
他団体の標準化会議にも積極的に参加し、国際標準化
及び国内標準化活動を実施する。

- ① ISO/IEC JTC 1/SC 31 標準化推進
- ② ISO/IEC JTC 1/SC 37 標準化推進
- ③ ISO/TC 122/WG 12 標準化推進
- ④ 関連団体等が推進する標準化活動への支援 (ISO/TC 31)

(8) 部会・プロジェクト活動

会員サービスの向上を念頭に、会員企業の事業拡大に
役立つ“付加価値(会員メリット)”を提供するため、
仲間作りの場の提供、業界や関連省庁の最新情報の
提供、普及啓発活動、市場拡大のために解決すべき
業界共通課題の発見と課題解決への取組みの場として
活動する。

- ① 会員への業界情報提供と会員相互交流・親睦
- ② 市場課題の解決に向けた活動
- ③ 技術分野横断活動
- ④ 会員外への情報提供、普及啓発活動

(9) 研究開発活動

研究開発は、バーコード関連、RFID関連、バイオメトリ
クス関連などの市場拡大のための課題・阻害要因の
解決や、新市場を創造する目的のために活動する。その
実施にあたっては、必要に応じて受託・補助事業テーマ
として関係省庁や関係団体に提案し連携・協力を行う。

JAISAではこのほど、2025年1月から12月までの自動認識機器市場の出荷金額を公表しました。
本調査は、JAISA市場統計委員会が会員企業を中心にアンケートを実施して104社の回答を取り
纏めたものです。市場調査報告は、1997年から29年間継続して実施しています。

自動認識の市場推移

調査要項および回答状況

本調査報告の調査対象分野は、自動認識システム関連
製品であるバーコードリーダ、バーコードプリンタ、
バーコードサプライ、RFID、バイオメトリクス、ソフト
ウェアとした。今回の調査では、2025年12月の当協会
会員企業124社、非会員企業234社の合計358社に
アンケートを実施し、104社から回答を頂いた。

2025年(1月～12月)実績

2025年自動認識市場全体の出荷金額合計は、バー
コードリーダ、RFID項目の出荷金額が減少したが、
バーコードプリンタ、バイオメトリクス、ソフトウェアが
増加し、前年対比0.9%増の2,633億円であった。

分野別での各項目の出荷金額前年対比は、バーコード
リーダが15.2%減の234億円、バーコードプリンタが
6.3%増の459億円、バーコードサプライが同等の
1,280億円、RFIDが1.7%減の498億円、バイオメトリクス
が2.4倍増の68億円、ソフトウェアが7.9%増の93億円と
いう結果であった。業種では、EC物流、通販、運輸、医療、
医薬品、製造、アパレルなどでの需要が中心であった。

バーコード関連製品

バーコードリーダは、EC物流、運輸、医療など一部の
需要は堅調である。しかし、本アンケートでは集計対象外
のスキャンエンジンを搭載していないスマートフォン、
タブレットでの利用増加や特需の減少などで、出荷台数
前年対比19.8%減の66万台、出荷金額前年対比
15.2%減の234億円であった。バーコードプリンタは、
EC物流、通販、運輸、医療、食品などの業務インフラ分野
での更新需要が継続しており、自動認識分野の中でも
安定性の高い市場である。また、製造での需要が回復し、
出荷金額前年対比6.3%増の459億円であった。

バーコードサプライは、原材料価格や調達環境の影響を
受けやすい分野であり、数量と金額の動きが必ずしも一致
しない点もある。EC物流、通販、製造、医療などでの
需要は堅調であったが、感熱紙、タグ紙、印刷済み製品
の出荷金額が減少し、出荷金額前年対比同等の1,280
億円であった。

RFID関連製品

RFIDは、物流、アパレルなどの需要が中心であり、
製造、医療、医薬品、オフィスでのシステム導入案件や
PoC(Proof of Concept)案件は増加しているが、本格
導入までのリードタイムが長く、また、小規模な案件が
多いため出荷金額に反映されず、出荷金額前年対比
1.7%減の498億円であった。

RFIDリーダライタは、出荷金額前年対比2.1%減の
103億円であった。
内訳として、固定型リーダライタは、出荷金額前年対比
0.8%増の63億円、手持型リーダライタは、UHF帯が減
少し出荷金額前年対比30.8%減の10億円であった。

モジュールは、出荷金額前年対比1.8%増の24億円、
ハンディターミナル、モバイル機器(業務用スマートフォ
ン、業務用タブレット)は、出荷金額前年対比24.6%増
の7億円であった。サプライ(非接触ICカード、RFタグ、
電子ペーパータグ、その他(チップ、インレットなど))は、
非接触ICカード、RFタグが減少し、出荷金額前年対比
2.0%減の372億であった。
内訳として、非接触ICカードは、出荷金額前年対比
11.7%減の75億円、RFタグは、出荷金額前年対比
2.2%減の190億円、電子ペーパータグは、前年の長波帯
の特需が減少し出荷数量は9万個と減少したが、出荷
金額は、物流、製造で需要が増加し、前年対比2.9倍の
1億円であった。

その他(チップ、インレットなど)は、出荷金額前年対比
5.8%増の106億円であった。

応用機器は、RFIDプリンタとRFID計測器、トンネル
リーダ、ゲートリーダなどの二つに分け回答をいただい
ており、RFIDプリンタは、出荷金額前年対比35.8%減の
7億円、RFID計測器、トンネルリーダ、ゲートリーダなど
は、出荷金額前年対比2倍増の9億円であった。

オプション品は、出荷金額前年対比11.0%増の7億円
であった。

バイオメトリクス関連製品

バイオメトリクスは、パソコン、スマートフォンでの利用
の他、2025年は、大型イベントの入場者関連の一部で、
顔認証のシステムが利用されるなど、幅広い業界で広

がっている。今回、企業10社から国内市場での回答をいただいている。官庁、自治体、空港、金融、病院などでの安定した需要のほか、オフィスや工場などの入退室管理、勤怠管理、トラック、バス、タクシーでの運転手本人確認の遠隔点呼、自動点呼などの需要がある。大手企業の回答もあり出荷金額前年対比2.4倍の68億円であった。このうちハードウェア（ハードウェア（生体認証を主たる目的とした製品）、モジュール（組込みを目的とした製品）、応用製品（生体認証が主目的ではないが、バイオメトリクス技術を組み込んだ製品））の合計は、出荷金額前年対比58.0%増の27億円、バイオメトリクスソフトウェアは、出荷金額前年対比3.7%増の41億円であった。

出荷金額を明示しない回答企業の出荷台数を加えたハードウェアは、出荷台数前年対比1.2%増の25万6千台であった。

ソフトウェア

ソフトウェアは、省人化、省力化に向けた業務効率化の進行に伴い、EC物流、製造、医療などの市場においてハードウェアを補完する存在から業務全体を支える中

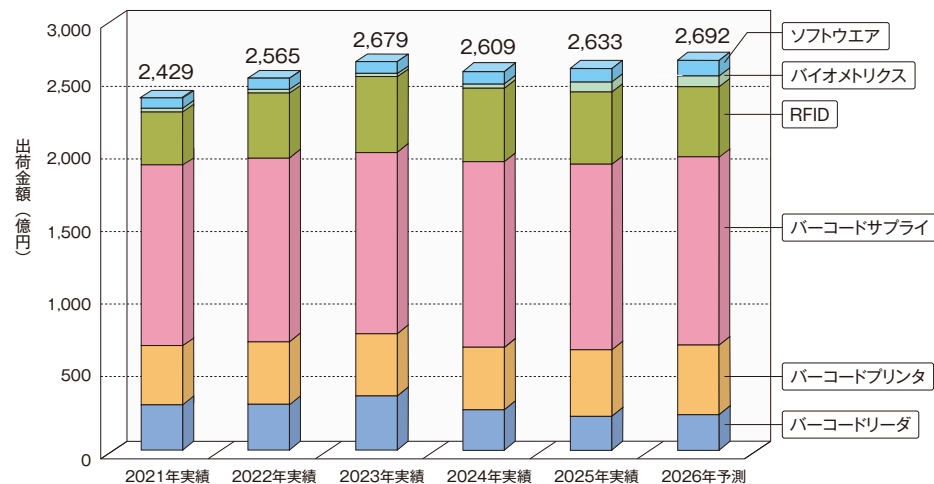
自動認識機器等の分野別の出荷金額の推移

自動認識市場の国内規模推移

上段＝出荷金額(百万円)
下段＝対前年比(%)

	2021年実績		2022年実績		2023年実績		2024年実績		2025年実績		2026年予測	
	回答件数	(N=115)	回答件数	(N=111)	回答件数	(N=110)	回答件数	(N=100)	回答件数	(N=104)	回答件数	(N=104)
バーコードリーダー	34	31,198 111.3	33	31,594 101.3	32	37,328 118.1	28	27,650 74.1	30	23,444 84.8	28	24,579 104.8
バーコードプリンタ	34	40,893 96.6	36	43,026 105.2	35	42,875 99.6	32	43,195 100.7	33	45,929 106.3	31	48,064 104.6
バーコードサプライ	40	124,623 106.5	41	126,655 101.6	42	124,954 98.7	40	127,941 102.4	41	128,002 100.0	40	129,811 101.4
RFID	72	36,433 101.1	68	44,974 123.4	65	52,468 116.7	59	50,685 96.6	62	49,811 98.3	59	48,506 97.4
バイオメトリクス	12	2,573 92.4	11	2,526 98.2	10	2,201 87.1	10	2,808 127.6	10	6,798 242.1	9	7,422 109.2
ソフトウェア	37	7,181 148.8	33	7,724 107.6	38	8,085 104.7	37	8,645 106.9	41	9,325 107.9	40	10,774 115.5
合計		242,901 105.2		256,499 105.6		267,911 104.4		260,924 97.4		263,309 100.9		269,156 102.2

自動認識市場出荷金額の推移



核要素へと役割が変化しており需要も増加し、出荷金額前年対比8.0%増の93億円であった。

バーコードパッケージソフトウェアは、バーコード作成、印刷パッケージソフトウェアが減少したが、出荷金額前年対比11.3%増の46億円、受託開発、カスタマイズが、出荷金額前年対比同等の28億円であった。

RFIDソフトウェアのパッケージソフトウェアは、様々な業種でRFIDシステムの導入が増加しており、出荷金額前年対比37.0%増の5億円、受託開発、カスタマイズは、パッケージソフトウェアの充実から大きく増加せず、出荷金額前年対比0.8%増の12億円であった。

2024年よりアンケート調査を開始した画像認識ソフトウェアのパッケージソフトは、回答会社数も増加し、出荷金額前年対比2.7倍の3千万円、受託開発、カスタマイズは、出荷金額前年対比2.1倍の8千万円であった。

2026年1月～12月の市場予測

2026年は、EC物流、医療医薬品、食品、小売などでの需要と製造関連の需要を期待しており、2026年自動認識市場全体の出荷金額は、出荷金額2025年対比2.2%増の2,692億円を予測している。

2025年度 日本自動認識システム協会 入会企業のご紹介

50音順掲載

2025年度にJAISAにご入会頂いた新会員企業をご紹介します。

JAISAは会員の皆様とともにAI時代における自動認識技術の再定義や統合アーキテクチャの標準化などを推進、社会的価値の創出を目指し、業界の発展と社会課題の解決に貢献していきます。



No	企業名	掲載頁
1	RFiD plus One	P 6
2	アクセンチュア株式会社	P 6
3	アルマーク株式会社	P 7
4	株式会社イー・ビー・エル	P 7
5	エブリ株式会社	P 7
6	LP&D Laboratory	P 7
7	株式会社オキタグ	P 8
8	グローリー株式会社	P 8
9	ジーエルソリューションズ株式会社	P 8
10	株式会社昭芝製作所	P 8
11	大同産業株式会社	P 9
12	帝国インキ製造株式会社	P 9
13	東武鉄道株式会社	P 9
14	東リ株式会社	P 9
15	ニューランドAIDCジャパン株式会社	P 10
16	富士フイルムメディカル株式会社	P 10
17	株式会社三井ハイテック	P 10
18	株式会社ムクイル	P 10



RFIDをもっと身近に、もっと実践的に

事業概要

RFiD plus Oneは、RFID/NFCを中心とした自動認識技術の企画立案、提案、導入支援を通じて、現場課題の解決と新たな顧客価値の創出を支援するアドバイザー事業を展開しています。

代表者名 相馬 一彦

設立年 2024年

本社所在地 東京都江東区住吉1丁目19-1



<http://www.rfid-plus-one.com/>

アクセンチュア株式会社

Accenture Japan Ltd.

企業システムの長期安定稼働を支えるUIプラットフォーム「Biz/Browser」

事業概要

アクセンチュア株式会社が提供する「Biz/Browser」は、バーコードやRFIDなどの自動認識機能を業務アプリに組み込めるUIプラットフォームです。多様な端末・OSに対応し、現場システムの長期安定稼働と業務効率化を実現します。

代表者名 濱岡 大

設立年 1995年

本社所在地 東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR



<https://biz-browser.opst.co.jp/>



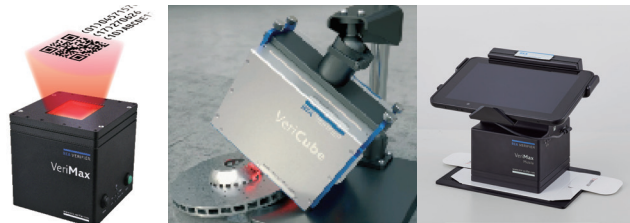
アルマーク株式会社
Almarq Inc.

ALL MARKING & BEYOND for QUALITY

事業概要

2次元コード検証機ベリファイアを取り扱い。
コードの品質や規格適合性を検証し、あらゆるコードリーダーで素早く読み取れることを判定。
また、2次元コードが印字可能な産業用印字機器を提供しています。

代表者名 代表取締役 赤木 康介
設立年 1967年5月
本社所在地 大阪府吹田市江の木町19-19



<https://www.almarq.co.jp/>



株式会社イー・ビー・エル
Enterprise Business Lab.

責任を持ってシステム開発に取り組み、 確かな信頼を得る。そんな技術者達が 働きやすい場所であり続ける

事業概要

WMSを起点に、物流・販売・生産管理など幅広い分野での業務系システムを開発。
マテハン連携制御やハンディターミナル・RFID対応を含め、要件定義から運用保守まで一貫提供し、安定運用を前提とした高品質なシステムを実現します。

代表者名 戸江 信介 設立年 2001年
本社所在地 大阪府大阪市淀川区西中島6丁目8-31
花原第6ビル6階



<https://www.ebl.co.jp/>



株式会社オキタグ

国産の安心と低価格を両立。 沖縄から発信する最先端の RFID技術で、世界の産業を最適化します

事業概要

沖縄発のRFIDタグメーカーとして、国産タグの製造・販売、受託製造などを行っています。最新鋭の高速製造設備による圧倒的な生産能力と柔軟な設計力でコストの壁を打ち破り、あらゆるモノが繋がるIoT社会を支えます。

代表者名 河村 哲 設立年 2023年
本社所在地 沖縄県那覇市



<https://okitag.jp/>



グローリー株式会社
GLORY LTD.

私たちは「求める心とみんなの力」を 結集し、セキュア(安心・確実)な社会の 発展に貢献します

事業概要

通貨処理機・セルフサービス機器の開発・製造・販売・保守、電子決済サービス、生体認証ソリューション等の提供

代表者名 原田 明浩 創業年 1918年(大正7年)3月
本社所在地 兵庫県姫路市下手野1-3-1



<https://www.glory.co.jp/>



エブリ株式会社
Every Co.,Ltd.

私たちは、IT技術を通じてお客様を支え、 持続可能な社会の実現に貢献します

事業概要

Everytimeいつでも。Everyoneみなさまに。Everythingあらゆるサポートを。を掲げ、エブリ株式会社はシステム開発・支援、インフラの設計、365日24時間のハード・ソフト保守・監視などワンストップサービスを行っているIT企業です。

代表者名 成田 昌浩 設立年 1983年
本社所在地 大阪市城東区森之宮一丁目6番111号
(NLC森の宮ビル12階)



<https://www.every365.co.jp/>



LP&D Laboratory
LP&D Laboratory

オープンソース的な手法による技術開発と イノベーションによる社会貢献

事業概要

LP&D Laboratoryは、安全で持続可能な社会を目指す研究開発ラボです。これまで大学や企業において研究開発に携わってきた知見と気象物理モデルとを融合し、気候変動による熱中症リスクから人々を守るソリューションを、独自のWBGT(暑さ指数)推定ロジックにより提供します。

代表者名 渡辺 明 設立年 2023年
本社所在地 宮城県仙台市



<https://www.lpd-lab.com/>



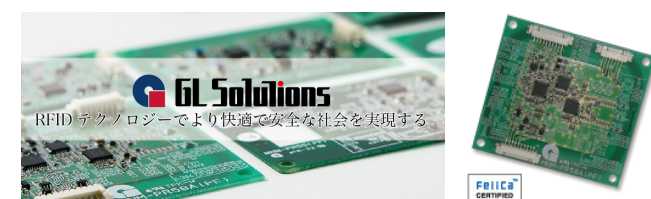
ジーエルソリューションズ株式会社
GL Solutions Inc.

目に見えず、触れられない技術だからこそ、 快適さや安全を感じる世界で 新たな価値創造に挑戦し続けます

事業概要

・RFID技術を中心とした自動認識事業に関わる製品の開発と販売
・世界初のICカード基本特許を持つアリムラ技研(株)が起源
・前身時代から、30年以上に渡りRFID事業への技術・製品提供を継続
・日本国内市場にて上位のシェア(HF帯市場)

代表者名 佐藤 勝秀 設立年 2013年
本社所在地 東京都台東区松が谷1-3-5 上野イーストビル G1



<https://www.glsol.co.jp/>



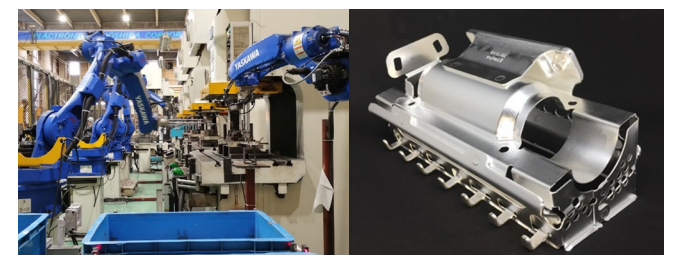
株式会社昭芝製作所
SHOSHIBA MANUFACTURING COMPANY LTD.

世界へ届ける、確かな品質と 持続可能なものづくり

事業概要

エアバッグケース・シートフレームの製造を中心に、金型の内製化と自動化設備を自社開発。また現場での困り事を解決するために開発したRFIDを活用したスマート棚卸・探索システム(みつけるん)の販売も行っています。

代表者名 三原 寛人 設立年 1952年
本社所在地 東京都練馬区小竹町1-63-6



<https://shoshiba.co.jp/>

人と化学、RFID技術の調和で 未来の現場価値を創造する

事業概要

RFID・ラベル・電子材料・化学品など幅広い製品を取り扱い、提案・加工・システム構築を通じて、お客様の課題解決と価値創造に貢献しています。

代表者名 山岡 卯人

設立年 1963年3月

本社所在地 東京都中央区日本橋本町2-8-7

TOTAL LABEL SOLUTION

- ・ラベル
- ・RFIDタグラベル
- ・プリンター
- ・特殊ラベル
- ・ラベラー
- ・その他（印刷関連）
- ・システム

“ラベル”で繋がる信頼と実績

<https://www.daido-sa.com/>

Coloringを通して地球的視野に立ち、お客様を心から大切にしよう
Coloringを通して地球的視野に立ち、私達一人ひとりが豊かになろう
Coloringを通して地球的視野に立ち、会社の発展に全力を尽くそう

事業概要

帝国インキは「お客様の望む姿の実現（お客様の商品・業務の高付加価値化）」をご提供するベネフィット（便益）と考え、お客様が抱える色と画像形成、機能性付与の問題を解決して、望む姿を実現する問題解決型支援としてソリューションサービスを提供します。

代表者名 澤登 信成

設立年 1895（明治28）年10月

本社所在地 東京都荒川区西尾久8-43-2（T3Cビル）

電磁波を
シールド、吸収する
インキがご提案
できます。



電磁波シールド無し



電磁波シールド有り

<https://www.teikokuink.com/>

リアルタイムかつ正確なデータキャプチャ で、オペレーションの高度化を支援

高度なデータの可視性と正確性を実現することで、業務効率の向上およびビジネス変革に貢献します。

事業概要

- ・バーコードスキャナ製品
ハンドヘルド型・固定式バーコードスキャナ、ワイヤレススキャナ
- ・モバイルターミナル、ウェアラブルソリューション
業務用ハンディーターミナル、RFID対応端末、ウェアラブル製品
- ・高性能OEMスキャンエンジン製品
幅広い製品への組み込み実績を有するOEMスキャンエンジン

代表者名

大林 広明

設立年

2023年2月

本社所在地

東京都港区港南1丁目9-36 アレア品川ビル13階

<https://www.newlandaidc.com/jp/>

事業概要

- ・医療画像情報システム、医療用画像機器システムおよび関連付帯するソフトウェア機材の販売、周辺機材の開発、保守点検・修理
- ・医療用内視鏡システムおよび関連付帯するソフトウェア・機材の販売、保守点検・修理
- ・超音波診断装置および関連付帯する機材の販売・保守点検修理、等

代表者名 川原 芳博

設立年 1965年1月12日

本社所在地 東京都港区西麻布2-26-30



医療のいちばん近くから、
次代を見つめる。

<https://www.fujifilm.com/fms/ja/>

「奉仕」「進取」「和親」を経営の拠り所とし、
安全の確保を根幹として事業を運営して
います

事業概要

鉄道事業や東京スカイツリー®を中心に、お客様の暮らしに密着した事業を通じて沿線地域の発展に貢献する企業グループとして、「運輸」「レジャー」「不動産」「流通」等の事業を多角的・複合的に展開しています。

代表者名 都筑 豊

設立年 1897年

本社所在地 東京都墨田区



<https://www.tobu.co.jp/>

私たちは「信頼」を糧として
新たな価値を創造し、世界の人々の
心豊かな空間環境づくりに貢献します

事業概要

ビニル系床材・カーペット・カーテン・壁装材の4つの事業を柱に、モノづくり企業として「確かな品質と技術」に裏づけされた事業活動を続け、機能性や意匠性に優れた製品を開発し、「信頼」される企業を目指しています。

代表者名 永嶋 元博

設立年 1919年

本社所在地 兵庫県伊丹市東有岡5丁目125番地



<https://www.toli.co.jp/>

超精密加工でしあわせな未来を

超精密加工でしあわせな未来を

わたしたちは輝く未来を創造する“開発型ものづくり企業”です。

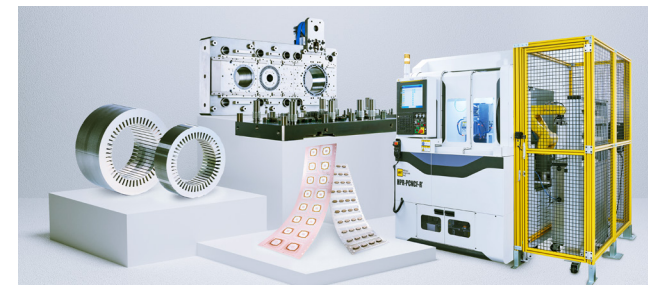
事業概要

当社は創業以来、超精密加工技術、高度な金型技術を最大の武器とし、リードフレーム、モーターコア、工作機械を中心に事業を展開してきた、開発型ものづくり企業です。

代表者名 三井 康誠

設立年 1957年

本社所在地 福岡県北九州市八幡西区小嶺二丁目10番1号



<https://www.mitsui-high-tec.com/>

誰もがアルゴリズムの恩恵を 享受できる世界を作る

ムクイルは、デジタル化が急速に進む現代社会において、技術進歩の恩恵を全ての人が享受できる環境を作ること、より公平で、より豊かな社会を実現することを目指しています。

事業概要

株式会社ムクイルは、製造業向けに特化したAIソリューションを提供するスタートアップです。職人不足や人手不足、品質担保などの課題に対し、現場で使える柔軟な技術を提案・実装します。また、生産性最大化とコスト削減を実現し、丁寧な対話でお客様の持続的な成長に貢献します。

代表者名

入江 龍雅

設立年

2024年

本社所在地

東京都墨田区太平3丁目11-10 NTKオオノビル6F



<https://www.mukuil.com/>

AUTO-ID トッパーナーに聞く

アイメックス株式会社

代表取締役社長 岡田 幸紀 様



1974年の創立から50年を超え、51年目の歩みを進めるアイメックス株式会社。コンピュータに位置を指示するためのデバイス「ライトペン」の時代から、光工学の技術を核に歩んできた同社は、バーコードの普及と共にペン型スキャナーの専門メーカーとしての地位を確立してきました。

現在、二代目社長として舵取りを担う岡田幸紀氏は、自社開発の伝統を尊重しつつ、外部リソースの活用やAI・ソフトウェア領域への進出など、時代の要請に応じた柔軟な経営を続けています。

今回は、これまでの歩みと、岡田社長が大切にされている誠実な経営哲学について、詳しくお話を伺いました。

— AUTO-ID業界に関わるようになった経緯は？

岡田 当社は1974年に、私の父が「メカノ株式会社」として設立しました。当時はまだバーコードという言葉が世の中になく、スポット溶接機の露光計や、レーザーを使って塵を検出するデバイスなど、光を使ったデバイス開発がスタートでした。私の父はもともと映画の技師をしていまして、小さい頃から秋葉原でパーツを揃えてテレビを自作するような、いわば「元祖秋葉少年」のような技術者だったんです。その技術の延長で、マウスやタッチパネルが普及する前に、ブラウン管の走査線の光をペン先で拾って画面上の位置を特定する「ライトペン」というデバイスを作りました。これが当時普及を始めたパソコンのインターフェースに採用されたことで、当社にとって大きな一歩となりました。



— そのライトペンが、御社の最初の量産品になったのですね

岡田 はい。先端で光を拾ってAD変換してパルスを出すという仕組みでしたが、NECさんのPC-8001向けにOEM供給をしたり、日立さんなどの大手企業に卸し始めたりと、ライトペンが当社として最初に量産にたどり着いた製品でした。その後、1979年頃にアメリカでバーコードが開発された際、この「光を拾う技術」をバーコードスキャナーに応用できないかと声をかけていただいたのが、AUTO-IDの世界に入ったきっかけです。1979年に光学系の自社開発に取り組み、1980年からペン型スキャナーとして形になりました。そこからペン型スキャナーの専門メーカーとしての活動が始まりました。

— 岡田社長ご自身のキャリアと、入社までの道のりをお聞かせください

岡田 私は神奈川大学の工学部で工業経営を学んだ後、麒麟ビールの子会社である「麒麟エンジニアリング株式会社」に就職しました。家業を継ぐつもりはなく、飲料・食品プラントの設計エンジニアとして働いていたんです。特に25歳の頃、大手菓子メーカーの新工場立ち上げプロジェクトで、ポテトチップス製造ラインの担当になった時のことは今でも鮮明に覚えています。

当時の現場は非常に厳しい状態で、来週には試運転を始めるというのに人の配置もスケジュールもなにも決まっていなかったという状況でした。そこで、若手の仲間たちと一緒に「このままでは試運転ができません」と本社の部長に直談判しに行ったんです。



— 25歳という若さで部長に直談判というのは、驚きです

岡田 すると部長から「じゃあ岡田、お前が（所長を）やれ」と言われ、25歳で現場所長を任されることになりました。朝8時の朝礼から始まり、ベテランの職人さんやゼネコンの担当者をまとめ上げる日々は、大きな度胸をつけるきっかけとなりました。月の残業が200時間を超えることもありましたが、やり遂げた経験は今の経営に生きています。ちょうどそのプロジェクトが一段落した頃、1997年に父から「そろそろ後継者を考えなきゃいけないから（アイメックスに）来るなら来い。来ないなら他を探す」と言われ、28歳で当社に入社しました。父とは親子でありながら、技術的な考え方で何度もぶつかりましたが、ものづくりへの熱意については共通していたように思います。

— 社長に就任されてから、ご自身の中で変化はありましたか

岡田 そうですね。ちょうど社長になって2年ほど経った40歳くらいの頃、自分の中で大きな転換点がありました。それまでの私は、性格的にどちらかというと「八方美人」なところがあったんです。あまり人から悪く思われたくない、誰に対しても「いい人」でいたいという思いが強く、それは社員に対しても同じでした。経営者として会社を引っ張っていかなければならない立場でありながら、どこか社員の顔色を伺っているような部分があり、リーダーシップを強く発揮できていたとは言い難い状態でした。実はこれが、自分の中で非常に大きなストレスになっていたんです。

— その「八方美人」な自分から、どのようにして変わられたのでしょうか？

岡田 きっかけはプライベートな、飲み屋での出来事でした。馴染みのバーのカウンターで飲んでいたら、たまに居合わせる苦手な常連客がいたんです。その人はいつも失礼な態度で、私は嫌だと思いつつも、空気を壊さないように無理をして愛想笑いを浮かべ、話を合わせていました。ところがある日、自分の中で何かが限界に達したというか、「何で私は自分の大切な人生の時間を、こんな人のために浪費しているんだろう」と、急に冷静になった瞬間があったんです。その時、言葉には出しませんが、自分の中で「ビシャッ」という音がするくらい鮮明にシャッターを下ろしたんです。相手との心の扉を完全に閉ざしました。そうしたら、不思議なことに向こうも何も言っておなくなり、それ以来、驚くほど心が軽くなったんですよ。

— そのシャッターを下ろした経験が、経営にも反映されたのですか？

岡田 はい。それからは「万人に好かれる必要はない。嫌う人がいてもいい」とはっきり思えるようになりました。社員に対しても、嫌われることを恐れずに「私がこの会社を引っ張っていく。文句があるなら言え」という強いマインドを持つことができたんです。それまでの、周囲に気を使って調整ばかりしていた自分を捨て、リーダーとしての軸を一本通した。そうした「いい人」であることを手放したことで、かえって社内の運営がスムーズになり、精神的にも非常に自由になりました。経営者には、時にそうした「シャッターを下ろす」強さが必要なのだと、あの時に学びましたね。



— 入社後、事業の進め方について違いはありましたか？

岡田 私が入社した当時は、業界がペン型からCCDやレーザーへとシフトしていく時期でした。

社内には「すべてを自社で設計・製造してこそメーカーだ」という強い職人気質がありましたが、市場のスピードに合わせるには自社開発だけでは限界がありました。そこで、2008年頃から台湾メーカーなどと連携したODM生産を取り入れることにしました。当時の技術部長とは「自分たちで作るべきだ」と激しく議論になりましたが、「お客様が必要なものを最適なタイミングで届ける」ことを優先し、舵を切りました。現在では、自社開発の技術と外部のリソースを柔軟に組み合わせる体制が当社の強みになっています。父からも、38歳で社長を継ぐ際に「お前の代なんだから好きにやれ」と言ってもらえたことが、一つの後押しになりました。

— 長年の歩みの中で、特に大切にされている信念は？

岡田 何よりも「お客様からの信頼」です。それは特にトラブルが起きた時の対応に現れると考えています。かつて、あるキャリアの3G通信モジュールを組み込んだ製品で、大規模な通信不具合が発生したことがありました。キャリア側は当初不具合を認めませんでしたが、私は「説明するまで逃げない」と決め、解析機を自ら持ち込んで5ヶ月間にわたってデータを取得し続けました。最終的にモジュール側のファームウェアのバグであることを突き止め、その経緯をすべてお客様に包み隠さず報告しました。この真摯な対応を評価していただき、そのお客様からはその後も継続してオーダーをいただけるようになりました。どんなに厳しい状況でも、逃げずに誠実に向き合うことが、長く信頼される会社に繋がると実感しています。

— これからの業界の展望と、新たな挑戦について教えてください

岡田 バーコードスキャナーは今や当たり前の道具となりましたが、今後AIや画像認識が普及すれば、物理的なスキャナーが不要になる時代が来るかもしれません。そうした変化を見据え、現在はハードウェアだけでなく、ソフトウェアやシステム領域でのサービス提供に力を入れています。例えば、廃棄物処理とか、リサイクルなどで出てくるマテリアルの再生利用を活性化させるためのプラットフォーム「GXクラウド」の開発や、発送伝票の住所不備を自動修正する「配送伝票コンバーター」の提供など、お客様の「困りごと」を解決するサブスクリプション型の事業を展開するなどしています。AIの利活用にも積極的に取り組んでおり、たとえば「配送伝票コンバーター」は、フォーマット違いや記入間違いが混在するCSVの

住所録データを、データクレンジングのうえヤマト運輸さんや佐川急便さんなど各社仕様の異なるシステム向けにAIがデータを自動で各社の送り状システムに適切なデータ形式へ変換するシステムで、EC事業者の方々から非常に期待されています。

— 若い世代の感性も、新たな原動力になっているとお聞きしました

岡田 昨年6月に入社した26歳の息子が、社内のデジタル化を一気に進めてくれました。これまでExcelやAccess、あるいはメールベースで行っていた古い業務管理を、Slackやスプレッドシートでの自動化へ移行しました。今ではAIにコードを書かせ、「配送伝票コンバーター」のようなプログラムも非常に短期間で作り上げています。若い世代の柔軟な発想と、私たちの培ってきた経験を組み合わせることで、次の時代を見据えた価値を提供していきたいと考えています。

— 最後に、若手の方々へのメッセージをお願いします

岡田 私自身、前述したとおり40歳の頃に「八方美人」から脱却し、そこから一人の経営者としての軸を持つことができました。これからはAIによって業務が効率化され、時間はもっと自由に使えるようになるはずです。その時間を、ぜひ自分の人間力を高めるための勉強やアクションに使ってほしいと思います。どんなに技術が進歩しても、最後は人と人とのコミュニケーションであり、信頼関係が重要になります。自分の可能性を信じて、ぜひいろいろなことに挑戦してください。

TOP RUNNER PROFILE



岡田 幸紀

おかだ ゆきのり

アイメックス株式会社
代表取締役社長

略歴

神奈川大学工学部卒業後、キリンエンジニアリング株式会社入社。1997年アイメックス株式会社入社、2007年より現職

趣味

ゴルフ、料理、ソロキャンプ

モットー

命までは取られない

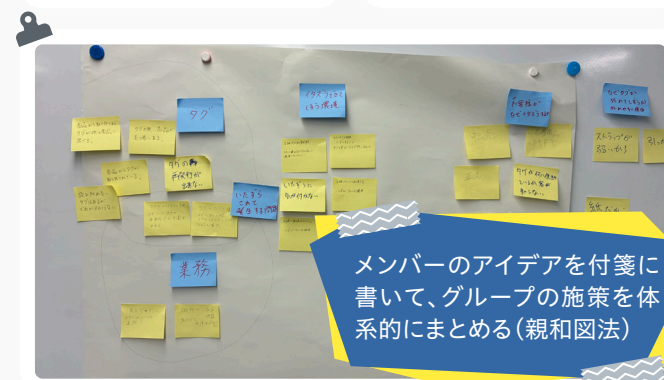
未来をつなぐAUTO-IDプロジェクト レポート

RFID導入シミュレーション ワークショップ

仮想ユーザーの問題点を分析して、 グループワークで解決策を提案

2026年3月17日、JAISA（東京・千代田区）で第1回「RFID導入シミュレーションワークショップ」が開催されました。このワークショップは、RFIDの業務に携わるJAISA会員企業の方々が、会社や業務の垣根を越えて、グループワークで個々の知見やアイデアを共有し、仮想ユーザーに対してRFID導入を提案するものです。ワークショップ開催の目的は、「主体性と提案力の向上を目指す」として、問題分析と課題解決策をグループでまとめること、また業界内の交流を促進し参加者の人脈づくりに役立てていただくことです。

当日の参加者は14名・社。RFIDの業務経験（数ヵ月～5年）や担当業務も営業、システム開発、購買、保守など、さまざまな部署の方々が参加しました。実施後のアンケートでは、他社の方々と共同作業が勉強になった、自身の業務に役立つ、新人研修によい、など多くのご意見、ご感想をいただきました。



ワークショップ会場JAISA会議室



佐久間さん

NECプラットフォームズ(株)



中野さん

大日本印刷(株)

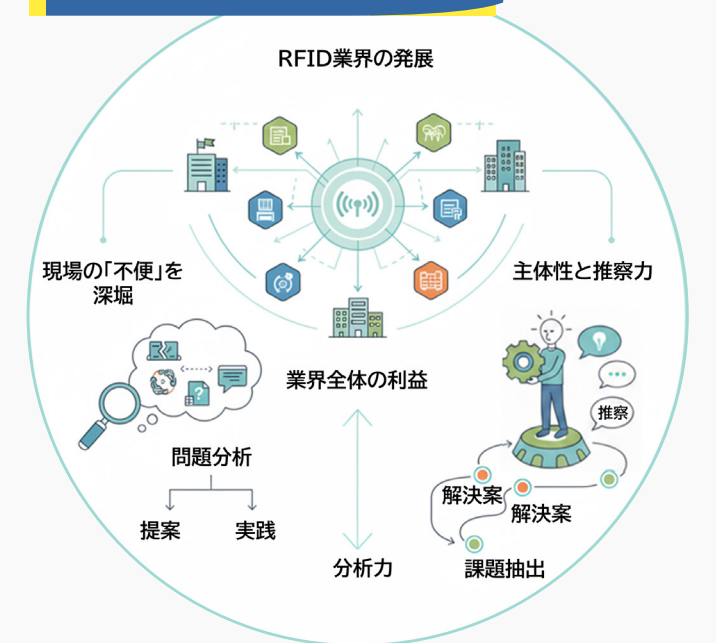


加賀谷さん

TOPPAN(株)

今回のワークショップは、JAISA会員企業の有志で結成する「未来をつなぐAUTO-IDプロジェクト」が企画・運営したもので、当日のファシリテーターにはプロジェクトの佐久間さん、オペレーターとして中野さん、加賀谷さんが参加しました。皆様はいずれもRFIDのエキスパートです。

RFID業界を考える(ワークショップテキスト)



未来をつなぐAUTO-IDプロジェクト:自動認識市場の持続的な発展・拡大を目的に、人材育成、イベントの企画運営、展示会出展などを通じて自動認識システムの魅力を発信しています。

ワークショップとは？

参加メンバーの知識や体験、アイデアを持ち寄り、共有することで、1人では思いつかない自分たちの解を生み出す活動

ワークショップの心得 全員参加

- ・積極的に発言する
- ・静かな人にも声をかけ、考えを引き出す

知識、体験、考えをみんなで共有

- ・他の人の言葉にもしっかり耳を傾ける
- ・一部の人だけ納得した状態はNG

リラックスして楽しむ

平等、互いを尊重する



学ぶポイント

業界全体の利益を見据えた視座

自社利益に固執せず、業界全体の発展を共通目的とすることで、企業の垣根を超えた本質的な課題抽出と連携を体験

現場の不便を深掘りする分析力

導入の障壁となる不便さや不具合を具体的に洗い出し、背景にある真因を論理的に分析して解決策を提案

実行を前提とした当事者意識

スキルアップを座学で終わらせず、自ら考えた解決策を現場へ提案・実践するまでの道筋を描き、主体性を養う

主なコンテンツ

13:30~17:00

JAISAについて

- ・協会の概要を説明

10分 ワークショップの概要

- ・当日の進め方を説明

30分 バイオメトリクスチュートリアルセッション

- ・生体認証とは
- ・生体認証の仕組み
- ・いろいろな生体認証技術
- ・生体認証の応用事例
- ・生体認証に関わる標準化

1分/人 イントロダクション

- ・自己紹介/名前、会社、担当業務
- ・最近気になっていること、など

10分 アイスブレイク

- ・付箋1枚に漢字1文字を書く
- ・グループごとに数を競う

【コウ】と読む漢字
「好」「稿」「項」「候」「校」
「高」「甲」「公」...

30分 ディスカッション

テーマ: RFID業界で問題と思うこと
グラドルルールを意識して、なるべく具体的に発言し、その内容をチームで発表します

<グラドルルール>
・“リアル”を共有
(秘密は厳守)
・積極的に発言
・安全性(正解はない)
・楽しみながら学ぶ

80分 事例に基づく課題解決提案

仮想ユーザーの現状(次頁/事例サンプル)から、問題を分析し、課題設定を行い、具体的なアイデアを持って、導入提案を行います

ユーザーの現状把握

- ・ブレインストーミング
- ・親和図法

導入のための優先度の決定

・ペイオフマトリクス
施策の「実現性(難易度)」と「効果」の2軸で整理し、取り組む課題を視覚的に決定する

80分 アイデアの具体化

- ・サービスを一言で説明
- ・誰の?(ターゲットの設定)
- ・問題点(具体的な課題と状況、リスク)
- ・解決法(手段)
- ・技術的な課題
- ・ターゲットのベネフィット(導入効果)
カテゴリーに沿って、メンバーの意見(付箋)を貼り、フラッシュアイデアシートを作成する

40分 グループ発表-講評

グループの発表者が、アイデアシートを基に、導入施策の経緯や解決策、導入効果をプレゼンする

個人よりチームの方が
豊富な意見が出ることを
実感して本題に入る
ステップとして

仮想ユーザー概要

「ファッションワールド」という中堅の衣料量販店は、〇年前にRFIDシステムを導入して全商品にRFタグを装着し、入庫・棚卸・売上管理の自動化に成功していました。当初は、高い精度でリアルタイム在庫管理を実現し、競合に先んじたIT活用を実践していましたが、最近では以下のような問題が顕在化し、RFIDシステムのリカバリーを検討しています。

発生している事象

- 1) タグの破損による読取不良
タグの破損、落札、擦れなど...
- 2) いたずらによるダメージ
客が意図的にタグを剥がし...
- 3) イベント期間の商品対応遅延
システム処理が追いつかず...
- 4) 費用対効果の悪化
売上増加率の減少...
システムへの手入力増加...

RFID業務データ

- 1) 棚卸作業時間/月
RFID導入前200時間 → 50時間
- 2) タグの読取精度当初は0% →
現在は〇〇%まで低下
- 3) タグコスト:
年間〇〇〇万円(商品10万点×〇〇円)
- 4) 問題発生箇所
衣類〇%、小物〇〇%、リサイクル品〇% ...



(記載内容はワークショップテキストを要約)

Aグループの提案

- RFID導入のテーマ:<運用の見直しに向けたヒアリング>
- 導入するターゲット: タグの不具合で作業不可が増えている店舗スタッフ
- 現状の問題点: システムの手入力による作業負担の増加
- 解決の手段: 現地調査を行い、タグ読取不良の原因を解明する
①タグが問題の場合、レイアウト変更、QRコード付加、タグの再選定など。
②タグの装着位置や読取環境、読取機器の確認も必要。
- 顧客ベネフィット: 読取率向上で作業効率・費用対効果向上。

講評 現場に入る、という視点が重要。自分の目で見ると、ユーザーと一緒に汗を流すと、よい結果がついてきます。共通認識があれば、導入先の要望が汲み取りやすく作業も進みます。



Bグループの提案

- RFID導入のテーマ:<タグの再選定>
- 導入するターゲット: 読取不良で人件費や作業時間が嵩む部門の責任者
- 現状の問題点: 販売機会ロス(店舗内、在庫管理、商品移動など)
- 解決の手段: ①タグ選定、レジで定置式のほかQRも読めるリーダーの採用。
②リアルタイム在庫管理(常時棚卸システム)の導入
- 顧客ベネフィット: 作業負担および販売機会ロスの軽減。監視強化。

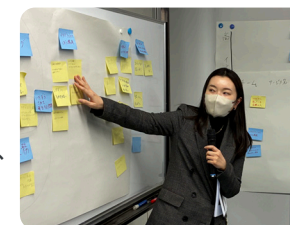
講評 常時棚卸ができるのと店舗運営の上で人と時間と商品を有効に活用・配置できますね。棚卸で実在庫と合わないこと、ありますね。営業時間外にやるものだという固定観念もあり、興味深い着眼点です。



Cグループの提案

- RFID導入のテーマ:<タグの入れ替え検討>
- 導入するターゲット: タグのいたずらで困っている部門
- 現状の問題点: いたずらができてしまう環境、タグが破損する原因
- 解決の手段: ①商品ディスプレイ什器、売場レイアウトなどの検証。
②タグ装着方法・レイアウト・基材を検証し、加工する。ランドリータグを使う、ポタンタグの採用などタグを再検討する。監視カメラの導入。
- 顧客ベネフィット: いたずらの抑制、盗難防止、不良タグ減少で作業効率向上。

講評 発想がおもしろいのは、外れるタグなら外せなくするというストレートなところ。タグひとつで改善点はさまざま。そこからお客様や、店舗内など改善領域を広げる手法もありますね。



ワークショップの開催にあたり事務局では、参加申込まいただいた順に、1社1名とし、グルーピングは業務経験期間、業務内容などを考査しました。

参加者の動機は、<RFID導入のポイントや進め方を知りたい>、<導入後に想定される問題点の対応策を知りたい>、<お客様に提案する経験はまだないが、自分から発言をすることに挑戦したい>など、RFID導入に向けた実践的な興味と、スキルアップを目的とした方々が大半を占めました。また、開催後日に行ったアンケート（回答10名）では、ワークショップの満足度について、全員が満足または大変満足とあり、その理由として<初めて

会った人と関連な意見交換ができた>などの感想が多くありました。次回は誰かに参加を勧めたいですか?の問いに、全員が勧めたいとの回答でした。



ワークショップに参加したみなさまと運営スタッフ

アンケートの回答(抜粋)

楽しかったコンテンツは?

グループワーク(GW) 4名

アイスブレイク 3名

質疑応答 2名

ほか1名

楽しかった理由について

GWでは実践に近いことが話題になり、知識や知見が広がった(同3名)

問題に対する着眼点の違いがあり、アイデア出しの幅が広がった(同2名)

ワークショップは役に立った?

人脈づくりに役立つ 5名

業務に役立つ 4名

あまり役に立たない 1名

役に立つと思う理由について

親和図法など普段使っていないアイデアの組み立て方が参考になった(同2名)

もう少し普段の業務を話す時間があれば今後仕事で関わることもできるかも

改善点やご意見

新卒社員のためのワークショップに。

新しい市場への提案やアイデアを出し合う。

RFID導入シミュレーションワークショップの参加者(五十音順)

秋 元 さ ん	(株)日立ケーイーシステムズ	RFID機器を含むZEBRA technologies製品の技術窓口。
大 久 保 さ ん	(株)サトー	RFID商談支援、サプライ・ハードの情報収集・整備。
大 谷 さ ん	ジエールソリューションズ(株)	新規・既存顧客へのHF帯リーダライタの販売。
大 槻 さ ん	リコージャパン(株)	RFIDを中心とした販売業務。
熊 谷 さ ん	山京インテック(株)	システム開発。
田 山 さ ん	(株)リコー	製造向けのDX,見える化、RFIDの提案。
千 葉 さ ん	TOPPAN(株)	RFIDの導入の販促業務。
名 取 さ ん	(株)ナテック	プラスチックカードメーカーの営業、その他RFIDの提案・販売。
藤 田 さ ん	ナクシス(株)	RFID資材のリピート手配、仕入れ、見積依頼、新型発注。
溝 井 さ ん	(株)宮川製作所	RFID持出管理システムとセキュリティキャビネットのご提案。
宮 村 さ ん	オカベマーケティングシステム(株)	RFID導入支援。
山 田 さ ん	(株)大和コンピューター	ソフトウェアの設計・開発。
山 本 さ ん	大日本印刷(株)	電子ペーパービジネスの企画・開発、拡販。
吉 永 さ ん	(株)デンソーウェーブ	RFIDを使った棚卸や探索アプリの開発。

あなたの毎日は、 自動認識に守られています。

カードも使わずにゲートが開閉して、関係者だけが入館できる。

生産地・生産者がわかる、安全でおいしい食材が手に入る。

ネットで注文したものが、すぐに手もとに届く。

そんな安全・安心・快適な社会を支えているのが、顔認識、RFID、
バーコードを始めとする様々な認証技術と自動認識システムです。

その恩恵は、今日のあなたにも。



日本自動認識システム協会は、人々の生活の向上のため、新たな技術とシステムの開発を推進しています。

一般社団法人 日本自動認識システム協会 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1丁目9番5号 FKビル7階

<https://www.jaisa.or.jp/>



JAISA